

企画展 かも・すがた・こころーいしかわゆかりの肖像ー



高光一也《立秋》東京国立近代美術館蔵
ー「かも・すがた・こころ」よりー

- 婚礼調度と遊戯具【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 加賀文化の粹Ⅰ 茶の湯・絵画・工芸【古美術】
- 前田家の甲冑・陣羽織Ⅰ【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 加賀文化の粹Ⅱ 茶の湯・絵画・工芸【古美術】
- 春の優品選【近現代絵画・彫刻】
- 春の優品選【近現代工芸】

- 第76回現代美術展
- 4月の行事予定
- 展覧会回顧 いしかわのおもてなし
- アラカルト ただいま展示中
- バスツアー募集記事

第7・8・9展示室 企画展

かお・すがた・こころ —いしかわゆかりの肖像—

主催：石川県立美術館

4月19日(日)～5月17日(日) 会期中無休



吉田三郎 《或る坑夫》



伊東深水 《醉燕台翁》



裕伊之助 《黄八丈の令嬢》
東京国立近代美術館蔵



中村研一 《H夫人の像》

ここで本展では、「かお・すがた・こころ」をテーマに、石川にゆかりの宮本三郎や裕伊之助、高光一也らをはじめとする当館所蔵の肖像から、時代性、そして時代を超越した人間描写の普遍性、さらには「かお・すがた」に映る「こころ」の描写を、約八十点の作品で紹介いたします。

さて肖像とは、ある特定の人物を描写したのですが、世界で最も知られた肖像画《モナ・リザ》のモデルは、定説のリザ・デル・ジョコンド以外にも諸説あることは有名です。中にはモデルを作者ダ・ヴィンチ本人や、ダ・ヴィンチの愛人男性とする説さえあります。その意味ではモデルに似ていることが、優れた肖像の条件ではないといえます。

そこで本展では、「かお・すがた・こころ」をテーマに、石川にゆかりの宮本三郎や裕伊之助、高光一也らをはじめとする当館所蔵の肖像から、時代性、そして時代を超越した人間描写の普遍性、さらには「かお・すがた」に映る「こころ」の描写を、約八十点の作品で紹介いたします。

◆観覧料

一般…一〇〇〇円（八〇〇円）

大学生… 八〇〇円（六〇〇円） 高校生以下無料

※（ ）内は二十名以上の団体料金、当館友の会会員は団体料金に割引

◆関連事業

講演会「西洋絵画 近代絵画に見る肖像画、人物画」

講師… 廣田生馬氏（神戸市立小磯記念美術館学芸係長）

日時… 令和二年四月十九日（日）

午後二時～三時三十分

会場… 当館ホール

聴講無料、予約不要（当日先着二〇〇名）

ギャラリートーク

会期中の毎週日曜日、午後一時三十分より、担当学芸員によるギャラリートークを行います。要観覧料。

第2展示室【古美術】

加賀文化の粹 I

茶の湯・絵画・工芸

3月24日(火)～4月13日(月) 会期中無休

前田育徳会尊經閣文庫分館

婚礼調度と遊戯具

3月24日(火)～4月13日(月) 会期中無休

今回は展示作品の中から『日月四季図』を改めて紹介します。本作は六曲一双屏風で、右隻に桜と柳、左隻に楓と松を中心に描き、籬と垣を大きく配して四季の草花を交え、右隻から左隻後景の雪を戴く松に至る季節の推移を表し、右隻に一部金雲に隠れた真鍮製の日輪、左隻に同様に真鍮製の三日月を添えています。このような画面の構成は、室町時代十五世紀末頃から多く描かれた日月屏風の系統であることを示しており、ハレの場の道具として次の『和漢朗詠集』の詩句を踏まえた理想的な四季の庭を描いたものと考えられます。「長生殿の裏には春秋富めり、老門の前には日月遅し。」(『和漢朗詠集』七七五 慶滋保胤「天子万年」)。

筆者はやまと絵系の絵師で、制作年代は洗練され

今回展示している、蒔絵で葵紋がほどこされた一連の婚礼調度を見ますと、前田家と徳川家の緊張関係が幕末まで継続していた事実を改めて痛感します。この緊張関係は、藩祖・前田利家と徳川家康の時代にさかのぼります。豊臣秀吉の盟友だった前田利家は、当然、形式的に秀吉に服属した家康を警戒していました。しかし、秀吉が一五九八年に没すると、家康は文禄・慶長の役をめぐる諸大名の不満を利用するなど、巧みに勢力を増大していきました。そこには、利家の健康状態の悪化も大きく影響していたようで、一五九九年に利家が没すると、家康をめぐる対立軸がいよいよ鮮明になりました。

家康は、加賀藩二代藩主・前田利長にも揺さぶりをかけ、生母(芳春院)を人質に取るなど、前田家による反家康の動きを封じ、関ヶ原の戦いを有利に進めま

した。しかし利長の弟・利政はこの時、家康に従わなかったため所領を没収されました。また、家康の芳春院に対する処遇も非情なものであったことが、芳春院の書状からうかがうことができます。家康は一六一四年、利長の死後に芳春院を返しますが、すかさず利家の側室であり、三代藩主・利常の生母である寿福院を人質に取ります。これは、大坂攻めを念頭に置いたものでもあったようです。

このように、家康の圧迫は前田家三代に及んでいきますから、家康没後、当然徳川家は前田家を警戒しますし、前田家も少なくとも、五代藩主・綱紀の時代までは反徳川の姿勢は貫いたようです。そして、今回の浴姫調度を見ると、その緊張関係は綱紀の時代以降も継続していたことが確認されるわけです。

た桃山的な華やかさの表現から慶長年間、十七世紀初頭と考えられます。本作は、加賀藩主・前田家に伝来したものではありませんが、こうした作品が当地の実業家により収集されるという文化環境が、「百万石ブランド」の継承とすることができるでしょう。

今年七月には、企画展「加賀百万石 文武の誉れ―歴史と継承―」が開催されます。本展では、百万石文化の継承にも着目し、加賀藩主・前田家による文化政策が明治時代以後、実業家や行政によって継承され、今日的な「百万石ブランド」が形成された事実も再認識したいと考えています。したがって「加賀文化の粹」と題した一連の特集展示は、その「序曲」となるものです。



《日月四季図》右隻

《英文蒔絵調度品 鏡家》浴姫所用

加賀文化の粹Ⅱ

茶の湯・絵画・工芸

4月19日(日)～5月17日(日) 会期中無休

今回は、茶道美術の背景について述べてみたいと思います。前田育徳会尊經閣文庫分館の特集「前田家の甲冑・陣羽織」と同時に開催されることで、どうしても、茶道美術の奥底にある生と死の切迫感が意識されるようです。二年前に当館が主催、金沢美術倶楽部が共催した特別展「美の力」の際にも強調しましたが、藩祖・前田利家以来の文武二道の家風と、特に三代藩主・利常と五代藩主・綱紀による戦略的な文化政策は、佗茶を大成した千利休の凄絶な生き様への深い共感が原動力となったと考えられます。

美の規範を定めることは権力者にのみ許されることであり、その意味では、利休は豊臣秀吉に対する逆者であり、利休の生き様が「美の下克上」とも言われるゆえんともなっています。そして美に殉じたた

の生き様は、利休在世時からあった利休の悪評を超越した寂靜感を人々に強く印象づけます。これが「美の力」であり、前田家が江戸時代を通して徳川家に対抗した「文化力」のモデルでした。

今回も《黒楽茶碗 銘北野》(県文)を展示します。本碗も前田家の収集品ではなく、「百万石ブランド」の文化的求心力によって当地にもたらされたものですが、その佇まいに接すると、どの作品にもまして生と死の切迫感が伝わってきます。「北野」の銘が「北野大茶会」とは無関係であることは何度でも強調しますが、この切迫感から菅原道真の悲憤を読み解くことは、さほど困難ではありません。わざわざ学芸員だけを呼び出して、本碗の寄贈を、簡単に思うなと仰った実業家の鋭い眼光も忘れることはできません。



県文《黒楽茶碗 銘北野》長次郎

前田家の甲冑・陣羽織Ⅰ

4月19日(日)～5月17日(日) 会期中無休

四月下旬からの大型連休と、今年は六月五日から同七日に開催される「百万石まつり」で、全国からのお客様をお迎えするにあたり、前田育徳会尊經閣文庫分館では、甲冑と陣羽織を主体とする展示を二期にわたって開催します。前田家の家風は文武二道であり、特に「文による武」に大きな特徴がありますが、そうした姿勢をわかりやすく伝えることができるのが、「文を内包した武」としての甲冑・陣羽織ではないでしょうか。

特に、加賀藩主が身につける甲冑・陣羽織は、百万石大名のステイタスを示すものであることから、形状や材質は入念に吟味されています。それは工芸品といってもよいレベルですが、加賀藩主・前田家の場合は、そもそも武具の製作やメンテナンスを行う工

人集団が、調度としての工芸品の制作にも携わっていたことから、必然的に甲冑・陣羽織の美術的完成度が高いというわけです。

そして、甲冑・陣羽織の「美」には武運長久を願う切実感があります。もちろん、今回展示されるのは実戦で用いられたものではありませんが、本号の前ページ「婚礼調度と遊戯具」の項で書きましたように、前田家と徳川家は幕末に至るまで緊張関係にあったことを思い起こせば、単に儀礼的・装飾的な甲冑・陣羽織は作られなかったのではないのでしょうか。こうした背景から、婚礼調度に続いて甲冑・陣羽織を展示する必然性がご理解いただけるのではないかと思います。

《黒塗筋十二間甲冑》六代吉徳所用

春の優品選

4月19日(日)～5月17日(日) 会期中無休

立春の前から暖かい日が続いた今年の冬でしたが、木々が芽吹き、さまざまな花が咲く春となりました。この季節にちなんだ作品を中心に、陶芸・漆芸・染織・金工・木工などの作品をご紹介します。

展示の頃はもう散っているかと思いますが、挿図の中憲一作《爛漫》は、満開の桜をやさしい色彩で表した、平成十五年(二〇〇三)の第二十六回伝統九谷焼工芸展優秀受賞作です。清水翠東、次いで武腰潤に師事した確かな色絵の技術に基づいた、絵心のある意匠が目を惹きます。枝を描かず花のみを絶妙な位置に配したことで、無地の空間には、花びらを揺らす風が吹き抜けているかのように感じられます。

漆芸の寺井直次作《萌春蒔絵水指》は、小さな生命

の営みに目を向けています。力強く伸びるゼンマイを金で、モンシロチョウを卵殻の白で、今まさに伸びようとする若い芽を青みがかった白の螺鈿ですっきりと配置しています。遠目には背景が黒の真塗に見えますが、近くで見ると細かな螺鈿がキラキラと光り、他にもたくさんのお萌え出る生命が、隠れていることを匂わせる意匠は見事と言えましょう。

さらに、昨年は木工芸の特別陳列を行い、展示した作家から作品の寄附をいただきました。その中から、挽物の中嶋虎男作《枳空造食籠》、指物の福嶋則夫作《神代杉柁目造板目象嵌八角箱》を紹介いたします。素材と意匠を調和させた、工芸作家たちの作品をお楽しみください。



中憲一《爛漫》

春の優品選

4月19日(日)～5月17日(日) 会期中無休

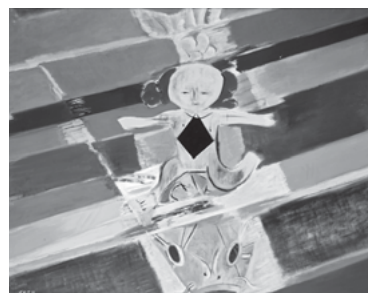
拍子抜けするほど雪のない今年の冬でしたが、季節は巡り、春の到来です。

日本画部門では、没後二十五年を迎える畠山錦成の作品を複数点展示します。畠山錦成は、金沢美術工芸大学の前身である、金沢美術工芸専門学校設立に尽力し、開校後は講師・教授をつとめるなど、石川日本画に大きく貢献した作家です。当館には十五点の日本画が所蔵されています。そのうち、季節にふさわしい優品を展示します。

洋画部門では、脇田和《赤い鳥》や《金太郎》など油彩画の秀作を紹介します。脇田は祖父の代までは加賀藩の上級藩士として金沢に居を構え、大正十二年にベルリン国立美術大学に留学、帰国後は新制作協

会の結成などに加わりました。子供や鳥を主題とする、洗練された抒情的作風は、脇田芸術の真骨頂であるといえます。また、油彩の他、多数、所蔵されている脇田の素描作品からは、生涯のテーマとなる鳥をモチーフとした作品をご紹介します。脇田自身が「頭と手のトレーニンング」という言葉で語っている素描で、画家の自在な画面構成力をお楽しみください。

彫刻部門では、晴れた日差しや生き生きとした動物たちの息吹を感じることが出来る作品を紹介いたします。得能節朗《春》は、掌に鳥をちょこんと乗せ空を見上げる姿から、暖かな日差しを感じることが出来ます。かわいらしい動物彫刻や可憐な人物彫刻も紹介いたします。



脇田和《金太郎》

第3・4・5・6・7・8・9展示室

第76回 現代美術展 一洋画・工芸・写真一

3月27日(金)～4月13日(月) 会期中無休

昭和二十年十月に第一回展が開催された現代美術展は、本年七十六回展を迎えます。その間、文化勲章受章者、日本芸術院会員、人間国宝をはじめ、多くの実力作家を生み出し、その成果は「美術王国石川」として大きく花開いております。

本展では、所属会派を超えて、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の六部門から、石川県美術文化協会会員らの秀作に、一般公募からの入賞・入選者の意欲作を一堂に展示します。

◆部門

第7・8・9展示室 洋画

第3・4・5・6展示室 工芸・写真

※金沢21世紀美術館では、日本画・彫刻・書が展示されます。

◆観覧料(金沢21世紀美術館と共通)

	一般	大高生	中小生
当日	一〇〇〇円	六〇〇円	五〇〇円
前売り	九〇〇円	五〇〇円	四〇〇円
団体	八〇〇円	四〇〇円	三〇〇円

※当館友の会員証は会員証の提示で団体料金

展覧会回顧

いしかわのおもてなし 一屏風絵などの調度を中心に

1月4日(土)～2月11日(火・祝)

二〇二〇年、オリンピックイヤーの幕開けを飾る展覧会として、「いしかわのおもてなし」を開催しました。本年は七月に始まる東京オリンピック、パラリンピックに国外から多くの外国人観光客が訪れることが予想されています。当館ではその来訪者を日本固有の文化でもてなそうと、本展を第一弾として数々の展覧会を企画しています。

本展では、「屏風祭」を意識した構成としました。「屏風祭」とは、祇園祭を起源として、江戸時代から町屋の一角を開放し、おもてなしとして誰もが自由にそれを見ることができるよう秘蔵の屏風や工芸品を飾るものです。室町時代十六世紀の《富士巻狩図》のほか、やまと絵系から琳派や狩野派、そして近代までの屏風を飾り、一部工芸作品をまじえた構成としてハレの空間をつくりあげ、生活を飾る「おもてなし」の場を展示室に表現しました。新春の展覧会ということもあり、工芸品は吉祥とされる意匠や画題を中心として、おもてなしという思いを込めた展示を心懸けました。

今年例年になく雪の多い穏やかな新春で、多くの来場者に足を運んでいただきました。雪を期待した観光客の方には拍子抜けした冬の景色でしたが、展示をご覧いただいた皆さんにはおめでたい雰囲気を感じていただけたものと感じています。



参加者募集 令和2年度 友の会第18回バスツアー 越前をめぐる

期 日／令和二年五月三十日(土)
集合時間／午前八時
発 着／金沢駅西口団体バス乗り場

参加料金／友の会会員 八〇〇〇円

会員以外 八三〇〇円

募集定員／四十二名

◆見学地

【福井県立美術館】

版画作品を中心とした展示を、解説を聞きながら観覧します。

【福井県陶芸館・越前古窯博物館】

陶芸館では解説を聞きながら、越前焼の優品を鑑賞します。また古窯博物館では、建物と企画展の石川県のやきものについて解説を聞きながら鑑賞します。

【金刀比羅山宮】

安永二年、讃岐国・金刀比羅宮の御分霊いただき合祀した金刀比羅山宮を見学します。

※道中、急な坂や階段(六十七段)を含みます。お気をつけください。

【越前町織田文化歴史館】

劔神社の国宝の梵鐘(奈良時代)や織田信長ゆかりの織田地域について、解説を聞き、知見を広げます。

【越前二の宮 劔神社】

神社の由緒について簡単な解説をいただいたのち、境内を自由に散策します。

◆申込み方法

往信はがきに下記の事項を記入し、ご応募ください。応募者多数の場合は抽選になります。



劔神社 拝殿

- ① 往信はがきの裏面に「美術館バスツアー希望」と明記し、氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号・会員番号(ある方のみ)をお書きください。
- ② 返信はがきの表面には返信先をはっきりとお書きください。消えるボールペンは使用しないでください。
- ③ 返信はがきの裏面には何も書かないでください。

◆応募先

〒九二〇一〇九六三 金沢市出羽町二一 石川県立美術館バスツアー係
応募締切／四月十七日(金)必着

※応募者一名につき、往信はがき一通で応募ください。

ペアでお申し込みの方、お一人ずつはがきを投函し、その上で「〇〇さんとペアと申込」と御書き添えください。

※急な階段や歩きにくい道、坂道などが行程に含まれます。足腰に不安のある方はお気をつけください。

※持病などをお持ちの方は、体調と相談のうえお申し込みください(当日、医療従事者は同行しません)。

4月の行事予定

19日(日)	<p>■「かわすがた」展記念講演会 14時～15時30分 美術館ホール 聴講無料</p> <p>「西洋絵画 近代絵画に見る肖像画と人物画」 講師：廣田生馬氏(神戸市立小磯記念美術館学芸係長)</p>
26日(日)	<p>■映像ギャラリー 14時30分～16時 美術館ホール 無料</p> <p>「続・美術のみかた10 洋画と日本画」(25分) 「美術のみかた2 見えるままに描くまで」(23分)</p>

《曲輪造沈黒鉢》まげわづくりちんこくばち

口径30.0cm×底径25.7cm×高5.0cm
昭和53年(1978) 第25回日本伝統工芸展

小森邦衛 こもり・くにえ

昭和20年(1945)～



側板の内外に筋が入り、漆黒に塗り上げられた桶状の浅鉢。側面の素地は、作者が自ら薄い板を曲げて輪にした、桶や弁当箱などにも用いられた曲輪、いわゆる「まげわづり」と呼ばれるものです。外側は曲輪の構造を表す筋のみとし、内側には沈黒で筋の間に唐草模様を施しています。あえて内側のみ装飾を入れ、しかも金ではなく沈黒。この作品の主役が「塗り」であることは明らかです。

作者の小森邦衛は輪島生まれ。樽見幸作、古今菁峰に師事した後、輪島市

立漆芸技術研修所(現石川県立輪島漆芸技術研修所)沈金科を卒業しましたが、講師の一人であった重要無形文化財「髹漆」保持者の赤地友哉が行っていた、曲輪を素地とする作品に惹かれ、改めて髹漆科に学びました。その後重要無形文化財「蒟醬」保持者の太田儔に師事し、竹を編んで素地とする籃胎を習得。曲輪と籃胎を組み合わせ、端正な塗りで仕上げた作品が高く評価され、平成十八年(二〇〇六)重要無形文化財「髹漆」保持者に認定されました。小森はこれを制作した前年の昭和五十二年(一九七七)に、日本伝統工芸展初入選を果たしており、初入選は指物の素地に、沈金装飾を施した箱でした。入選二作目のこの大きな変化は、小森が素地から塗り、仕上げまで、すべて自ら仕上げる作品へと、舵を切ったことを示すものでしょう。

余談ですが、この年の日本伝統工芸展に出品された当館所蔵作品は多く、松田権六《漆の花生》、大場松魚《平文薄の棚》、中野孝一《秋草蒔絵小篋筒》といった漆芸作品をはじめ、毎田仁郎や中儀延の染織作品ほか、計九点が所蔵されています。

次回の展覧会

令和2年5月23日(土)
～6月14日(日)
会期中無休

前田育徳会
尊経閣文庫分館

第2展示室

前田家の
甲冑・陣羽織Ⅱ

加賀文化の粹Ⅲ

第3・4・5・6・7・8・9展示室

改組新 第6回日展 金沢展

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

4月6日は第1月曜日より

コレクション展示室無料の日

4月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

4月の休館日は
14日(火)～18日(土)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか?

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上

県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 株票

石川県立美術館だより
第438号(毎月発行)
2020年4月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishiki.pref.ishikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。